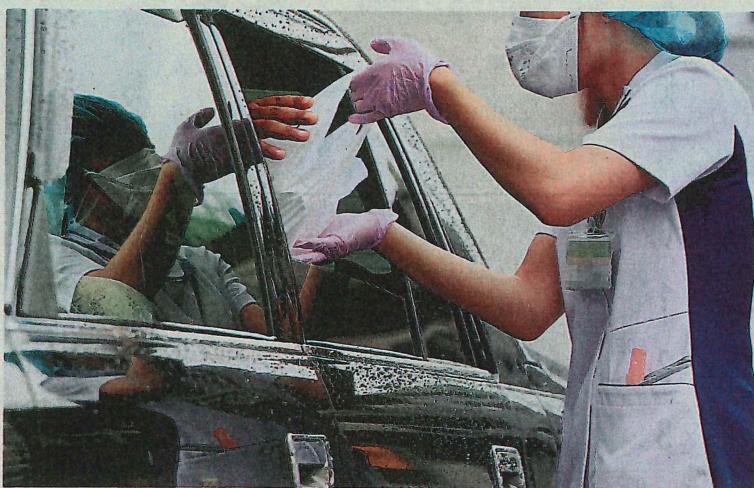


止まぬ感染 責任は菅首相退陣へ



検査を終えた新型コロナ陽性者に薬を渡す看護師=3日午後、名古屋市千種区の「ちくさ病院」で(一部画像処理)

医療現場「専念言い訳では

もはや打つ手がなかったのか。菅義偉首相は三日、退陣の意向を突然、明らかにした。衆院選が迫る中、新型コロナウイルス拡大を抑え入めず、支持率はじり貧に。「コロナ感染防止に専念したい」。身を引く決断を説明する首相に、緊急事態宣言下で逼迫する医療現場や苦境にあらざ飲食店から、新たな混乱を心配する声が出た。

「コロナ対策が言い訳に一相の言葉に違和感を覚え使われているように感じた」これまで、首相のコロナ対策に本気度を感じたことはない。緊急事態宣言を出すと決めて、発令は常に数日後。医療現場では緊

急手術が必要などぎ、数日後にはしない。「誰かに言われて、コロナ対策をやらされているようだった」と車が並び、タクシー後部突き放す。

自宅療養のコロナ感染者らを診療する同市千種区の「ちくさ病院」。運営する医療法人の加藤豊理事長(50)は「現場で働いている人の声を聞いてほしかった」と漏らした。

岐阜県大野町のパート清水奈緒美さん(33)は冷ややかに受け止める。同町の小中学校は午前中のみの短縮授業で、母親仲間からは「子どもの預け先をどうしよう」との声も聞こえる。「この大変なタイミングで退くのは責任逃れのようを感じる」と不満げだった。

岐阜市内の総合病院に勤務する医師(40)は、「ワクチン接種が進んでいることは地域のかかりつけ医として、新型コロナ感染が疑われる患者を診察する津生協クリニック接種を始めた。首相が「十分な量を確保した」と言つても、なかなか手元が始まつた後も、感染は再

に届かなかつた。「打ちたび拡大する」とみていた。「首相は読みが甘く、何を書いていたんだと思つ」と憤り、「コロナ対策の責任の所在はどうなるのか」と批判した。

岐阜市内の総合病院に勤

務する医師(40)は、「ワクチン接種が進んでいることは代わった方がいいのでは」と話した。滋賀県彦根市でスナックを経営する女性は「リーダーが代わると、混乱が起きてちやんとした対策ができるのではないか」と不安を口にする。

コロナ禍で希望する仕事が見つからないといふ名古屋市の四十代無職男性は、「コロナ対策はこれからが正念場のはず。新しい首相にはリーダーシップを期待できるのだろうか」。

緊急事態宣言下で繰り広げられる永田町の混乱に政治への無関心も広がる。名古屋市内のワクチン接種会場から出てきた同市中川区の女性会社員(30)は「首相が誰でも正直興味はない。旅行も飲みに行くのもダメで、いつまで我慢すればいいんだろ?」といふがやつても難しいとは思つたが、菅首

「何か一つでも実績残して」

首相乏しかった発信力

げ店場 のなの質発に民に つ発るず見け首

母親、居酒屋、会社員… 市民は疲弊

相は自信がないような印象だったので、女性刺さる逃走の男、広島、トラン

三百午前八時ころ、広島県呉市ツピングセンターウンヌの駐輪場が聞こえ、血を吐いた人がいた」とあった。呉市西海岸の土産物店兼食堂「岩戸屋」の社長、牧戸

福詞さんは「コロナ禍の状態では、誰がやっても難しいとは思つたが、菅首

ばした。

県警は、殺人未遂で一時